

## 会 議 録 ( 1 )

会 議 の 名 称	平成29年度 第3回入間市人権教育推進協議会
開 催 日 時	平成30年2月15日(木) 午後3時00分開会 午後4時35分閉会
開 催 場 所	入間市役所 C棟5階 501会議室
議 長 氏 名	山口忠友
出席委員(者)氏名	古谷 進 小玉佳也 永石 類 齋藤勝久 内藤達矢 山田達雄 木口昭子 山口忠友 斉藤俊明 大島光恵 笹尾 彰 大場烈夫 寺岡豊博
欠席委員(者)氏名	遠藤 敏 中沢ますみ
説明者の職氏名	3 協議事項 林田主事 4 その他 林田主事 関谷社会教育指導員 人権推進課町田副主幹
会 議 次 第	1 開 会  2 あいさつ 山口人推協会長 西澤教育長  3 協議事項 (1) インターネットの使用法と人権に関する教育を推進していくために (2) その他  4 その他  5 閉 会 御礼のあいさつ 齋藤教育部長
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	別紙のとおり
事務局職員職氏名	齋藤教育部長 新見教育部次長 片寄社会教育課長 関谷社会教育課主幹 林田社会教育課主事 関谷社会教育指導員 熊谷教育センター主幹 町田人権推進課副主幹

## 会 議 録 ( 2 )

### 議 事 の 概 要 ( 経 過 ) ・ 決 定 事 項

#### 3 協議事項

(1) インターネットの使用法と人権に関する教育を推進していくために (案)  
最終検討

はじめに・家庭における取組

学校における織組

行政における取組・おわりに

(2) その他

#### 6 その他

報告事項

- 人権啓発講座 (3回) 林田主事
- 人権問題講演会 林田主事
- 人権教育実践報告会 関谷社会教育指導員
- ・公開シンポジウム紹介 町田副主幹

## 会 議 録 ( 3 )

発 言 者	発 言 内 容
	<p>3 【協議事項】</p> <p>(1) インターネットの使用法と人権に関する教育を推進していくために (案)</p> <p>はじめに</p> <p>1 家庭における取組</p>
山口会長	「インターネットの使用法と人権に関する教育を推進していくために」という提言書の訂正した内容について、事務局から説明願いたい。
林田主事	<p>提言書の修正点について説明させていただく。まず、事前に送らせていただいたピンクの表紙の資料だが、P 1～P 3までが提言書の案である。併せて本日配らせていただいたA 3版の両面刷りになっているのが、訂正した箇所が分かるようになっていたものだ。両方合わせてご覧いただきたい。</p> <p>前回と同様に「はじめにと家庭における取組」で1つ、「学校における取組」で1つ、「行政における取組とおわりに」で1つというふうに区切り、説明をしたいと思う。</p> <p>(「はじめに」と「家庭における取組」の訂正箇所について説明する。) この2つについてご協議いただきたい。</p>
山口会長	「はじめに」と「家庭における取組」のところでなにか意見はあるか。
笹尾委員	新しく(4)の「ルールを設ける」というところだが、「使い方について、 <u>機器を持たせる前に子どもと話し合っ</u> て、家庭内でルールを設ける」という意味か。ルールを作るのに機器を持たせてから作るよりも、持たせる前に互いにルールを作り、納得して与えるというのが良いと思う。
山口会長	笹尾委員より「 <u>機器を持たせる前に家族で話し合っ</u> て」という表現にするという意見だが、いかがか。(意見出ず)では、事務局のほうで、この点について検討していただき、最終的に入れていきたいと思う。その他に意見はあるか。
小玉委員	<p>あらかじめ送っていただき、じっくりと目を通す時間があつたのでよかった。私のほうでも真剣に読ませていただいた。これは、公用文になるので、「はじめに」のところで、「スマホ依存」とあるが、公用文の場合は「<u>スマートフォン依存</u>」になるのかなという気がする。一般的には、「スマホ」と言っているが、公用文の場合は「スマートフォン依存」のほうが良いのかなという気がした。</p> <p>それと、調べる時間がなかったのだが、「家庭における取組」で、2行目に「子ども」というのがあるが、8年前だったか公用文の改定があつたときに、「<u>子供</u>」と漢字で表記せよというのが埼玉県から出ていたような気がする。確認していただければと思う。</p> <p>後は、(1)「<u>幼児期からインターネットを使う子供が増えています。</u>」というのは、幼児期は主体的にはたぶんインターネットには触れていないと思うので、ここは、「<u>幼児期からインターネットに触れる</u>」のほうが良いのかと思う。逆に、(3)「<u>保護者は、子どもがどのようにインターネットを扱っているか、また、どのようなコンテンツを使用しているのか</u>」だと思う。「触れる」ではなくて、もう一步踏み込んで「<u>使用しているのか把握することが大切です。</u>」のほうが良いのかという気がした。</p> <p>申し訳ないが、「子供」だけは、調べきれなかった。別にこのままでも結構だ、問題</p>

<p>笹尾委員</p>	<p>はない。</p> <p>関連して、この文章の中に、「子ども」というのと、「児童生徒」というのが出てくるが、何か使い分けがあるのか。「児童」というのは「小学生」、「生徒」というのは、「それ以上」。「子ども」というのは「全体」を指すのか。</p>
<p>林田主事</p>	<p>それと、学校のほうでは、「児童生徒」ということで、小学生と中学生の区分ができるということで、こちらでは作っている。</p>
<p>山口会長</p>	<p>先ほど小玉委員から「スマホ依存」を「スマートフォン依存」にするということと、「子ども」を「子供」とするということについては、事務局のほうで調査して、必要であれば検討してもらいたいと思う。</p> <p>後、(1)と(3)の「インターネットを使う」と「インターネットに触れる」という点と、「どのようなコンテンツに触れているのか」を「どのようなコンテンツを使用しているのか」について、確かにそのほうが良い気がするので、検討したいと思う。</p>
<p>大島委員</p>	<p>その他意見はあるか。</p> <p>2つある。まず、家庭における取組の上から3行目の「適切な付き合い方を身に着けさせることが必要です」のところ、この意味は分かるが、市民の立場からすると「適切な付き合い方」とは何かなど。私なら、「正しい」、それから、「付き合い方」は「交際」という意味合いが強く感じるのでひらがなにしてもらったほうがどうなのかなと思う。だから、(2)の「インターネットとの付き合い方」も、やはり、ひらがなのほうが良いのではないかなと思う。</p>
<p>山口会長</p>	<p>その点も検討していきたい。</p>
<p>大島委員</p>	<p>「適切」ということはよく分かるのだが、市民の立場からすると、これが適切なのかどうか分かりにくい。「正しい」のほうがわかり易く感じる。</p>
<p>山口会長</p>	<p>他に何か意見のある方は?</p>
<p>小玉委員</p>	<p>「正しい」と「適切」とは意味が全然違うのではないかな。「インターネットの正しくない使い方はあるのか」という観点になってしまうと思う。「適切」「適切でない」、「正しい」「正しくない」。難しいところだ。</p>
<p>林田主事</p>	<p>こちらで、「適切」にしたのは、「正しい付き合い方」とは何なのかと言うと、こちらでも正直、示せないところがある。教育委員会が「これが正しい付き合い方だからこれでやりなさい」と押しつけたり、提示したりするということもできないということもあるので、そういう点では少し逃げてしまうという形ではあるが、「適切な」という表現でこちらとしては載せている。</p>
<p>大島委員</p>	<p>承知した。</p>
<p>林田主事</p>	<p>「付き合い方」のところは、ひらがなのほうが良いということなので、そこはひらがなに修正したいと思う。</p>
<p>大島委員</p>	<p>願います。</p>
<p>齊藤委員</p>	<p>関連してだが、3行目は、「適切なつきあいかた」ということで、ひらがなでよいと思う。(2)の「インターネットとの付き合い方」のところは、「インターネットの使用<u>方法</u>」とかの文言のほうがいいのかと思った。「付き合い」のほうが範囲が広がるの</p>

山口会長	<p>だろうけれど、この文章を考えると、何を話し合うのかという「インターネットの使い方」というふうになるのかと思う。<u>「付き合い」という漠然とした言葉よりも「利用の仕方」とか「使い方」というような具体的な言葉のほうが良い</u>と思う。</p>
山口会長	<p>齊藤委員から「付き合い方」よりも「使い方」のほうが具体的で良いのではないかという意見があったが、いかがか。この点について意見はあるか。</p>
大島委員	<p>私の見解の仕方は、「インターネットとの付き合い」の中に、取り扱う方法もあれば、家庭内のルールとか、いろいろな意味合いが含まれてくるのではないかと思う。最初は使用方法ではないかというふうに思っていたのだが、何度も読んでいううちに、そうではなくて、家庭内でのルールとか、取り決めとか、先ほどおっしゃられたように<u>家庭内でルールを作り、それを含めた意味での付き合い方かな</u>というふうに理解した。</p>
山口会長	<p>確かに「使い方」のほうが意味の範囲が広いかなと思う。</p>
齊藤委員	<p>確かにそうだと思うが、最初の3行のところに<u>「インターネットとの適切な付き合い方を身に着けさせる」というふうに広い意味の形でこの3行で付き合い方というふうに提示している。その具体的な例示として(1)～(4)まで、より具体的な形で書き込まれている</u>と思った。それで、<u>(2)のほうは、私はあえて絞ったほうが良いのではないか</u>と思ったので、「付き合い方」ではなくて「使用の仕方」のほうが良いのではないかと意見を述べた。正直言って結論どちらでもよい。ただ、意味合い的には、最初の3行の文章の位置付けと、(1)～(4)という具体例の位置付けとは、ちょっとお位置付けが違うのではないかと感じたので。</p>
山口会長	<p>他にこの点について意見のある方はいるか。<u>「使い方」「付き合い方」のどちらが良いかということについては、事務局と協議して最終的に決めていきたい。</u></p>
齊藤委員	<p>先ほど小玉委員から指摘のあった、「スマホ依存」という言葉が公の文章場合は、「スマートフォン依存」のほうが良いのではないかということについてだが、もう「スマホ依存」という言葉で一般的には定着しているのではないか、逆に「スマートフォン依存」というのは、わざわざこのようには言わないような気がする。だから、<u>公の文章ではあるが、「スマホ依存」で一つの言葉という感覚でよいのではないか</u>と思った。後は事務局に任せる。</p>
山口会長	<p>確かに、一般には「スマホ依存」「スマホ」と言っているが、先ほど小玉委員が言ったのは、公文書としてはどうかということですね。</p>
小玉委員	<p>そうだ。私は学校教育だが、皆さんは例えば「中退」という言葉を使うが、私たちは使わない。「中途退学」なのだ。そういうところがあるので、<u>「スマホ依存」と一つの単語であるならば、私はこのままでもよい</u>と思う。ただ、「スマホとは何だろう」と、いろいろな人がいるから、突っ込みどころはあることは確かだ。</p>
山口会長	<p>この点について、他に意見のある方は？</p>
小玉委員	<p>特にどちらでもよい。</p>
林田主事	<p>「スマートフォン」と伸ばす場合であれば、「スマートフォン依存症」というふうにしたほうが良いと思う。「スマホ依存」という言葉がどれだけ使われているものなのか、「スマートフォン依存症」という言葉でもよいのかというところで、こちらとしても</p>

小玉委員	よく確認して修正していきたい。
林田主事	ただ、「依存症」の「症」までつけてしまうと、これは病気なのかと。これはまた難しい問題が出てきてしまう。もうごまかせない。
山口会長	そこは言い切ってしまうでもいいのかということもあるので、 <u>よく確認し正しい言い方ができれば</u> と思う。
永石委員	<u>この点については、事務局のほうで検討いただきたい。</u> 他に意見はあるか。
山口会長	(2) のところで、「インターネットとの付き合い方について、家庭で話し合う機会を設け、また、何かあった時に…」というより、文章としては、「…機会を設け、何かあった時には <u>話しやすい家庭環境</u> を作ることが大切です。」とした方が、文面としてはスッキリするという気がするのだがいかがか。
永石委員	この点についてどうか。
山口会長	付け加えて言うと、どちらが良いかはわからないのだが、「話しやすい」というよりも「相談しやすい」というような言葉のほうが、「何かあった時」には相談的な意味合いがあるのかなと思う。こんなトラブルになってしまったというように。こう考えると「 <u>相談しやすい家庭環境</u> を作る」にしたほうがイメージが付きやすいのかと思う。
山口会長	「何かあった時に」というところは、「何かあった時には」という表現にしたほうが良いと思う。「 <u>話しやすい家庭環境</u> 」、或いは「 <u>相談しやすい家庭環境</u> 」、この表現について何か意見はあるか。
山口会長	では、 <u>この点については、事務局と相談をした上で決めていきたい</u> と思う。
木口委員	その他意見のある方は？ 木口委員いかがか。
山口会長	なるほどなということで伺っていた。
山口会長	それでは、「はじめに」と「家庭における取組」は終わりにして、次に移りたいと思う。引き続き事務局から説明をお願いします。
山口会長	<b>2 学校における取組</b>
林田主事	（「学校における取組」についての修正点について説明する。）ご協議のほどよろしくお願ひしたい。
山口会長	「学校における取組」について、何か意見のある方はいるか。
永石委員	(1) の3行目のところで、「自身の発言がどのように他人に影響するのか」というところで、実際、中学校などで起きているトラブルだと、インターネット上の発言が他人だけではなくて、自分自身にも影響を与えているというのもある。誰かを誹謗したのだが、逆にそれでたたかれてしまい、本人がすごく困ってしまったというのがあるので、ここは、 <u>他人ということだけではなく自分にもというような意味合いを含めたほうがより良いのかな</u> という気がする。
山口会長	今の意見について何か意見はあるか。
永石委員	今の意見は、「自身の発言がどのように <u>自分及び他人に</u> 」という感じでよいか。
山口会長	その通りである。
山口会長	大場委員いかがか。

大場委員 笹尾委員	<p>ここについては特に、前回の意見が反映されていると思う。</p> <p>(3) だが、「保護者に対して～提供すること」、ここは、(2) と重なっているように思う。<u>学校でやる仕事としては、(2) に含ませてしまえばよいと思う。</u>あえて、新規サービスでも、講演会を実施して現状を話す時に加えればよいという気がする。</p> <p>それから、その後だが、前回の意見の中に「ネットパトロールをそれぞれの学校がやるのは予算的にも非常に大変だ」と、これは行政が主になってやって、学校と協力してやるような問題ではないかと読んだのだが。そうすると、(3) の後半については、<u>行政における取組に入れて、4つ4つに作るとすると、行政のほうにちょっと先走る</u>が、<u>行政の(3) を行政でやるというよりも、これは学校で(アクティブ・ラーニングなど討論形式のディベートをはじめとして)、市民がでなくて「生徒がインターネットの利便性や危険性を学ぶ機会を設けることが必要です。」というふうにしたほうが良いのではないかと思う。</u></p>
山口会長 小玉委員	<p>なるほど。今の意見に対してどうか。</p> <p>この意見は、私はもともとだと思う。(2) の「保護者に対して講演会等を実施し、保護者もインターネットの現状について学ぶ機会を設けることが必要です。」と、(3) の「保護者に対してインターネット上の新規サービスなどの最新情報を提供する」というのは、重なると思う。前回、遠藤委員から「新規サービスというのは何だろう」という意見が出た。私もこれを読むと、新たにどこかのキャリアが学割をはじめますよとかいうサービスのようになってしまう。文案を作ったのだが、まず(2)、「保護者に対して講演会等を実施し、<u>インターネット上で生じている様々な課題についての最新情報を提供するなど</u>、保護者もインターネットの現状について学ぶ機会を設けることが必要です。」というような形でまとめるのはどうだろうか。</p> <p>もう一点、細かいことだが、2の学校における取組の前文の「<u>学校等の教育の場における活動を通して、</u>」と(4)「<u>児童・生徒がインターネットを通じて</u>」だが、<u>公文では、「～を通して」はひらがな、「～を通じて」は漢字だったと思う。</u>或いは、<u>両方とも「通じて」にしてしまうか。</u>検討願う。</p>
山口会長	<p><u>「～を通じて」「～を通して」については、良く調べて正しい方にしていきたい。</u>提案のあった件についても検討していきたい。(3) については、何か意見はあるか。(2) と(3) とをつなげたらということについて。</p>
齊藤委員	<p>(2) と(3) について、一つにしたほうが良いのではないかというのと、ネットパトロールは行政のほうに持っていったらよいのではないかという意見だったが、最初私はこれを読んだ限りでは、(2) は講演会等ということで、ある段階までのインターネットの利用の仕方とか現状というのを保護者に知らしめるというか、ゼロから教えるとか、ある段階から最近の状態までを教えるというような、まとまった知識を提供するようなことを(2) で言うおいて、(3) は逆に随時、新しくなった情報を保護者に提供していくというような、ネットに対する説明内容がある段階までのひとまとまりを提供するのが(2) の文章で表していて、(3) はそれから先に常に変わってきている部分をいち早く提供していくというようなニュアンスでこの文章は作られ</p>

	<p>ている。要するに<u>時系列的に違うのではないかと私は解釈した。</u></p> <p>ネットパトロールについても、身近なものをやらなくてはならないので、追加で随時提供していくという方の情報提供として、学校が把握するだけでなく保護者にも提供していくというニュアンスで捉えた。内容的には同じようなことを言っているのだが、提供する内容が少し違うのではないかと思った。だから、<u>私は先ほどの意見は反対ではないのだが、あえて、似たような内容を2つに分けて書いてあるのは、そういう意味かなと理解した。そのあたりの観点をもし変えるのであれば生かしてほしい</u>と思う。具体的な文章は思いつかないのだが。</p>
山口会長	<p>(2)と(3)には、そういう時系列的な区別があるという意見だ。小玉委員いかがか。</p>
小玉委員	<p>具体的には、どのような内容かと今考えている。もし、時系列なことで言うと。私どもがやっている講演会は、なりすましであったり、ラインであったり、いろいろなことを講演でやってもらっているが、<u>それ以外最新の情報というのとは何かあるのだろうか</u>と考えている。まだ思いつかない。</p>
笹尾委員	<p>各項目で、取組を4つで限定しているというこの提言の中で、先ほど小玉委員が言ったように、<u>(2)に一つにまとめてしまって何ら問題はないと思う。</u>当然講演会もやるし、新しい情報も与えるというのが、保護者に対して学校がやるべきことだと捉えればそれでよいと思う。それよりは、さらに一つはずして子供たちにディベート等を使ってその利便性とか危険性を話し合わせる場が学校ではないかと思うので、あえて市民にディベートとか討論形式でどこでどうやるのか知らないが、やるよりは私はこれを2に持ってきて、その代わりネットパトロールというのは、これは学校独自では大変だというのが前回出たと思うので、これは当然行政が大きく関わって、学校の協力を得てやるということで、これを行政のほうに持ってきて4つ4つでまとめるほうが良いと思う。私は、先ほどの小玉委員の(2)と一緒にするということが十分だと思う。</p>
山口会長 寺岡委員	<p>いろいろな意見が出ているが、他の委員の方はいかがか。寺岡委員いかがか。</p> <p>(2)と(3)の重複点をまとめるのはよく理解できる。<u>(3)のネットパトロールは無理ではないかという意見が出ているが、私はあえて残したほうが良いと思う。</u>個人的経験だが、息子の中学校であるトラブルがあって、保護者である私がネットパトロールのようなことをしたことがある。その時調べたのがツイッターなのだが、いろいろな生徒の名前が出てくる。それを学校に教えたのだ。こっちは誰かわからないので。だから、その時思ったのは、そういう情報を学校が受けてくれるということは大事だなと思ったのだ。忙しい先生たちがわざわざやらなくても、何かで関わってくる保護者であったり、そういう人たちからの情報を行政に言っても仕方がない。学校に言いたかっただけなので。そういう意味で、ここは削除しないほうが良いのではないかと思う。だから、<u>「教育委員会や保護者と協力してネットパトロールを～」</u>とか、<u>そういう一言を入れればよいのではないか。</u>忙しい先生がやらなければいけないという文になっていなければ良いと思うので、<u>学校にもネットパトロールについて入れてお</u></p>

<p>山口会長</p>	<p><u>いたほうが良いと思った。</u></p> <p>学校における取組の特に（２）と（３）について、皆さんからいろいろな意見をいただいた。皆さんは、この文章についてはあまりこだわらないという意見なので、<u>頂いた意見を反映させて変更していきたいと思う。</u></p>
<p>笹尾委員</p>	<p>ちょっと分からないのだが、こういう提言をすると、市でこういう提言が出た以上は、学校はネットパトロールを置くとか、なんとかしてでも予算を含めて対応していかななくてはいけないという状況になるのではないか。そうしたら、<u>あえて個々の学校にこれを義務付けるよりは市の教育委員会あたりが責任を持ってやるほうが良いという</u>ことにはならないか。</p>
<p>山口会長</p>	<p>ここで言っているのは、各学校がネットパトロールを推進するというのではなくて、市として（教育委員会がやっているとは思いますが）それをもっと強化するという感じの意味だと思う。<u>ネットパトロールを推進し、充実させるということは、各学校にそれをするよう要求するという意味ではないと思う。</u></p>
<p>笹尾委員</p>	<p>そうしたら、それがなぜ学校における取組なのか。<u>行政における取組の中で学校が協力していくというのが当たり前ではないか。</u>もし、今の話だと。そう思って言ったのだ。それぞれその地域に手伝いをされる方が入ることは良いのだが、提言することでそこまで拘束してしまうと、予算も全部つけなければいけないし、そういう状況が出てくることにならないかと思ったのだが、いかがか。</p>
<p>山口会長</p>	<p>この文章では、その点明らかでないかと思うが、今いろいろと議論してきた前提は、<u>各学校がやるということではなくて、教育委員会或いは行政がやるということ、それを強化していくという意味だと思う。</u></p>
<p>笹尾委員</p>	<p>私もそう捉えて、<u>それなら行政における取組のほうに入れておいたほうが良いのではないかという意見だ。</u></p>
<p>山口会長</p>	<p>その辺をもう少しはっきりさせて、<u>ここを行政のほうに移すか或いは文章を検討するか、そういうことにしたいと思う。</u></p>
<p>齋藤部長</p>	<p>ネットパトロールのシステム、仕組みとそれぞれの役割ということだと思う。ネットパトロールについては、教育委員会が一括して予算計上し、小中学校２７校すべて合わせて、ある専門業者に委託をし、問題発言等のネット上の書き込み等についてチェックを入れる。その中で、例えば誹謗中傷であるとか或いは身体に影響があるような発言、例えば自殺願望だとか、そのようなことが出たときに、これは非常に大きな問題に発展していく可能性がある、そういうようなものを委託業者のほうにリストアップしてもらい、そのリストアップしてもらったものについては、教育委員会の方から学校のほうに「こういう内容で、これは真剣に取り組まないと大きな問題になっていく」というようなシステムになっているということなので、<u>そういう前提の役割分担、システムというところからすれば教育委員会の役割。後、出てきた情報を子供たちの指導に適切に対応するというところの中での学校の役割というのがそこに出てくるかと思う。そのようなところの中で、どういう文面が正しいのかということで意見をいただきたい。</u></p>

山口会長	では、この点については、教育委員会、行政が中心となって進めるということ踏まえて意見を伺いたい。他に何か意見はあるか。
小玉委員	付け足しだが、学校の中での取組の中にある意味教育委員会も入っているという捉え方でよいと思う。これを行政に持って行ってしまうと、予算の問題とかいろいろ出てくるので、 <u>学校における取組の中に教育委員会も入っているという捉え方でよいのかなと私は思う。</u>
山口会長	他に何か意見はあるか。(なし) それでは次に移りたいと思う。3の「行政における取組」と「おわりに」を一緒に事務局から説明願う。
	<b>3 行政における取組</b>
林田主事	(「行政における取組」及び「おわりに」についての修正点について説明する。)ご協議のほどよろしくお願ひしたい。
山口会長	「行政における取組」及び「おわりに」についてのところで何か意見のある方は?
小玉委員	ここはすごく悩んだところだが、前文のところで、「市民一人一人がインターネットの使用法を意識」とあるが、「使用法」は「意識しない」ということで、ここは「市民一人一人がインターネットについて理解し、誰もが…」でよいと思う。使用法は意識するものではないだろうということ。
	それから、「おわりに」のところの3行目、「インターネット使用者自身」とあるが、これは助詞の「の」を入れて「インターネットの使用者自身」としたほうが良い。
	後は、「行政における取組」の(2)「子を持つ親に限らず、市民全体を対象とした講演会や啓発活動を実施し、誰にでも関係することであるという自覚を持つことが必要です。」とあるが、「誰にでも関係することである」の主語がない。この文章の「何が」がない。(2)は主語が抜けている。
	一番皆さんで話し合ってもらいたいのは、(1)の「ノーメディアタイム」だ。これが出たときに、本当に皆に受け入れられるのかどうか。まず一つ、「ノーメディアタイム」と言ってしまうと、「メディア」だから「インターネット」ではなくて、当然テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などはオールメディアだ。それらに触れないことは、「インターネットとの付き合い方を目的として」とあるが、インターネットとの付き合い方を考える目的として、インターネットはもとより、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などに触れないことが関係あるのかどうか。本当に「ノーメディアタイム」というのが有効なのかどうかというのが、これはある意味画期的というか、すごい提言だと思う。もしやるのであれば、こういうことなのかなと。目的がこうではなくて、私が考えた文案だが、 <u>「家庭でのふれ合いや話し合いを大切にするため、ノーインターネットタイムを提言し、各家庭において改めてインターネットの在り方について考える機会を設けることが大切です。」</u> と。こういうことなのかなという気がした。「～必要です。」までは言い過ぎかなという気がした。「～大切です。」とかそんなことなのかなという気がした。(1)について、皆さんの意見をいただければと思う。

山口会長 内藤委員	<p>「ノーメディアタイム」について提言するという事について意見はあるか。</p> <p>私も「ノーメディアタイム」という言葉は、耳慣れないというか、ピンと来ないというか、捉え方もあるが、家庭での取り組み方、ルール付けということと結びつくとは思いますが、やはり言いたいのは、今の時代の天気予報とかを見るのもインターネットとかスマートフォンとかで見る手段にもなっているし、インターネットを完全に使わないということではなくて、例えば家族で家にいる時間に限ると、せっかく一緒の部屋にいるのにスマホでゲームをしているとか、会話もままならないでただその部屋に一緒にいるだけのような、家族と接する時間もないとか、そういうものを抑制するとか。私にも子どもが沢山いるのだが、自分の家庭に例えると、今言ったようにインターネットを使ってはいけないとかルールは特に決めていなくて、1日のうちに何時間以内にしなさいとか、あまり長い間ゲームやったりインターネットをやり続けていたら、スマホを取り上げるよとか、そういうふうに言っている。自分の子供を教育するという意味でもあるのだが、<u>「ノーメディアタイム」というのは、自分も変えたほうが良いのかなという気がする。</u></p>
山口会長 木口委員	<p>木口委員いかがか。</p> <p><u>(2)の「子を持つ親に限らず」というところが引っかけた。</u>次に「市民全員を対象とした」とあるので、<u>あえてそこはなくてもいいのかなと思った。</u></p> <p>「ノーメディアタイム」については、メディアはかなり広い範囲を指しているの、そこは考えていかななくてはいけないと思った。</p>
笹尾委員	<p>「ノーメディアタイム」については、どう考えて良いのか分からないのだが、ただ、行政としてやるのであれば、先ほどの内藤委員が言ったことは家庭における取組だ。そこまで行くと行政における取組というところからは外すべきだと思う。</p> <p>それと、<u>(2)の「子を持つ親に限らず」のところは、重複しているのではないと思う。「市民全員」でよい。</u></p> <p><u>(3)の内容は、おそらく市民全員に何らかの機会をとということなので、講演会や啓発活動を実施することでよいと思う。</u>それよりは、こういうことをやるのなら、先ほどから何回も言っているが、「学校の中で児童がインターネットの利便性や危険性を学ぶ機会を設ける必要がある」というふうに、学校の中でやった方がよい。子供たちがこういうことをやったほうが良いのではないかと思う。私は、(3)の内容は、(2)に含ませてしまって、学校の取組みの中でこういうことは是非やってほしいと思う。</p>
永石委員	<p>「おわりに」の5行目に「子供が加害者・被害者にならないためには」と出てくるが、これはあくまでも「<u>子どもがインターネットを使用することで加害者や被害者にならないために</u>」というふうに<u>何か文章が必要ではないかと思う。</u></p> <p>先ほどの「ノーメディアタイム」ということだが、確かにメディアという範囲が広いと思うので、これの目的が意味合いとしてはたぶん「家族と触れ合う時間を作ろう」という目的なので、発想を全く逆にしてしまって、今は良いネーミングが思い浮かばないが、「ファミリータイム」ではないが、「家族との時間」というようなネーミングにしてしまったらどうかと思う。それを提言して、できる範囲でインターネット</p>

山口会長 大島委員	<p><u>に触れない時間を設けるというようなやり方だ</u>とどうか。良い言葉はすぐには浮かばないが、そういう方向性の言葉にするとすっきりするのかなという気がする</p> <p>先ほどの小玉委員の意見と同じか。他にこの点について意見のある方は？</p> <p>(1) だが、「ノーメディアタイム」のところで、「スマホ依存」とか「ネット依存」の予防の意味合いが強いと思う。パソコンなりテレビなりゲームなりを見る時間を縮小して、その余った時間を家族で話し合うとかすることによって生活習慣も変わるらしい。だから、そういうことを行政が提案して、「こういうABCの案がある。お宅はどれかを実行してみたらいかがか。Dはお宅だけの独自の方法があります。」ということを作ってみて、家族でそれを話し合うこと自体が話しやすい家族になると思う。何か事が起きたときに相談できるというふうなデータがあるらしい。だから、<u>行政でそういう方向性を、ただ何か考えなさい</u>と言うよりは、<u>こういう案がある、その中のどれか一つをお宅でやってみないか</u>というように具体性を持ってあげると、子供もわかり易いし、大人もわかり易いかなと思う。</p>
山口会長	<p>皆さんの意見を聞いていると、この「ノーメディアタイム」を、メディアということで広く捉えるといろいろな意味で難しい。<u>「スマホとかを使わないで家族で楽しい時間を確保する」</u>そういう形での提案というのが良いのではないかという意見が多いように感じた。そういう文章にしていきたい。</p>
永石委員	<p>その他に意見はあるか。</p> <p>(1) のところだが、「できる範囲でインターネット等に触れない」というのは、たぶん個人でということなのかなという気がする。メディアを使いながらであっても家族で触れあっている時間というものもある。例えば、家族でどこに旅行に行こうかというときに、インターネットを使いながら「ここは楽しそうだね。」ということもある。実際、そういう部分で行くと、かなりメディアという範囲で言うと広がってしまうので、逆にただ会話だけの時間というもの、もちろん大事だと思うのだが、何かあることによって家族の交流ができたりするということもあるので、そういう意味で言うるととても難しいなと思う。<u>インターネットとの付き合い方を考える</u>ということはとても大事だとは思いますが、<u>付き合い方を考える上で、その場からメディアを排除してしまえばそれができるのか</u>という点、必ずしもそうではない。付き合い方を考えるということは、<u>どうメディアを使うかを考える</u>ことでもあるので、やはり家族の絆が深まるようなメディアの使い方というのがこういう場面でもあってもよいと思う。そこを考えると、これはちょっと難しいなという気がした。</p>
山口会長 斉藤委員	<p>確かに、メディアを使いながらも家族とのふれあいが持てるということもある。</p> <p>今、(2) の最後「～<u>自覚を促す</u>ことが必要です。」修正のほうは最初の文章だと「～<u>自覚を持つ</u>ことが必要です。」だったのを、私は「持つ」ではなく、「促す」に変えてほしいと前回言ったので、これが「促す」になっているので、主語はたぶん行政がとなっていると思うので、そういう面では、「促す」という言葉になったので、主語がないというのが解決したのではないかと思う。</p> <p>(1) の「ノーメディアタイム」だが、<u>要は、次の文章に書いてある「インターネ</u></p>

ットに触れない時間を設けることを働きかける」。行政がそれを働きかけて、もう一度  
ネットについて考えてみてください。つまり、インターネットに振り回されるとか、  
インターネットに依存するというような現状になりつつあるのを、何かにきっかけが  
ないとそれを自覚するのが難しいだろう、それを行政が例えば、現実問題としてどこ  
までできるか分からないが、そういう声を上げることによって、それをきっかけに改  
めてネットの使い方をそれぞれの家庭で考えてもらうという意味合いだと思う。だから、「ノーメディアタイム」という「メディア」という言葉だけで捉えて、メディアという大きな範囲で考えてしまうと、確かに言葉としては確かに適切ではないかもしれない。ここで言いたいのは「ネットに触れない時間をとにかく作りましょう」という  
ことだ。私は、この文章を検討しているとき、確か、24時間営業とかも本来人間の人間たる生活習慣として24時間営業が必要なのか。そういうことも考えて、今、働き方改革とかも言われているが、それも含めて、要するに「生き方だ」。何が幸せかということを考えたときの「生き方」に通じる問題なのかなと思う。それを導くのが、ある面では行政の役割としてあると思う。だから、そういうことを提言したいという意味があつてこの文章が出てきたと思う。だから、せっかく委員会で討議しているのだから、そういう行政の目指す方向性を言葉として入れていき、100%これと同じ  
ことをやれと言うことではないが、こういう方向性のことを行政は考えるべきだとい  
う提言文になったらよいのかなと思う。だから、今まで話を聞いていて、言葉を解釈していくと、難しいというか、どの言葉が適切かというのはなかなか難しいと思う。とにかく、「触れない時間を設ける」という機運を作るきっかけを行政が作るのだとい  
うように考えたらよいのかなと私は思う。

山口会長

他に意見のある方は？（なし）

それでは、この点については事務局と相談をして適切な文章を煮詰めていくことにす  
る。

山田委員

他に意見のある方は？ 山田委員いかがか。

多少の文章だとか問題はあるにしても、全体としては問題はないと思う。せっかくここは協議会なので、もう少し具体的な話し合いをして、それが良いとか悪いとかとか、そしてその結果でそれはそうだなというような話になればよいと思う。何となくみんな上品なことばかり言う。ここではみなすごい先生方がいる訳だから、うちの学校ではこういう問題があつてこうだったとか、うちの家庭ではこんな話し合いをしたとか、こんなようなことが話し合われて、その結果で、それだったらこんなふうにしたらよいのだなというような認識ができればよい。協議会として文章化すると、また押しつけだとかなんとか言われるかもしれないが、少なくともこの中では、そういう話し合いをした結果でこういうことが納得できるというふうな理解になればよい。何となく、今は字句にこだわったり、あまり具体的なことではなく「ノーメディアタイム」ということでも、結構それを賛成される方もいると思う。実際それは無理なこととか、現実的ではないと思う。絶えずその中にいるのだから。だから、そういう中で自分はこう思ったとか、自分の家ではこうだったとか、こういうふうにしたと

<p>山口会長 齋藤委員</p>	<p>かいう話があると、それではこの文章でよいとか、ここはもう少し具体的なことを入れたほうがいいのではないとか、<u>協議会らしい案があっても、それは一般に通じるようなことでもなくてもよいと思う。</u>そんな討論をきかせて頂いたら役立つと思う。</p> <p>齋藤勝久委員いかがか。</p> <p>今回の内容が子供たちと学校とか、そういう問題が主だったもので、現実的な話が、そういう子供がわが家にいないもので具体的な話ができなかった。我々としては、現実的な話よりも理想的な話になってしまうので、実際にはそういう体験がないわけだ。例えば、<u>「ノーメディア」がいろいろ議論になっているが、私の家庭から見れば、子供がいないためにそんなことは全然考えていないことは事実だ。</u>例えば、テレビを見ながら難しい言葉が出たり、或いはすぐそこで調べるといふ癖はある。そういうのを見ると、それがうちの家庭では普通であって、或いは子供がいるとそういうことに対してどうなのかというと、全くわからないのが現実なのだ。だから、意見を求められてもなかなか発言できなくて申し訳ないのだ。その辺が私としてのジレンマなのだ。<u>現実的に関わっている先生方がおられるので、その辺のことを中心に進めていただけると良いと思う。</u>ただ、文言だとかそういうものは、今言われているようなことがある。例えば、3の行政における取組とかの文言で<u>「市民一人一人」</u>とかはよくひらがなを使ったりするときも、どっちかを使ったりするときもあったり、「インターネットの使用法を意識」という話もあったり、これは「<u>インターネットの利用についての意識</u>」とか、その辺についてはあるのかなと思うが、そういうことについて私の意見がなかなか言えなくて申し訳なかったと思っている。</p>
<p>山口会長</p>	<p>今日も委員の皆さんにいろいろな意見を伺ってきた。今日が最後の協議会なので、皆さんの意見を踏まえて<u>最終案については事務局と私のほうに任せていただきたいと思う。</u>最終的にまとまった文章については、皆さんに配る。その後しばらくして教育長のほうに提言書として提出する。その<u>最終案をご覧いただき、また意見がある場合は、事務局のほうへ連絡いただければ検討させていただきたいと思う。</u></p> <p>時間が来たので以上で今日の提言についての協議を終了したいと思う。</p> <p>それでは、協議事項の2のその他に移りたい。他に何か意見や質問等はあるか。</p> <p>特にないようなので、第3回の入間市人権教育推進協議会を終了する。2年間、皆様にはいろいろ協力をいただきありがとうございます。御礼申し上げます。</p>
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p>平成      年      月      日</p> <p>議 長 の 署 名 _____</p>	